四季 ―志木自然報告―
Shiki Seasonal Nature Reports 2018

Cover Story

年中行事の世界
No.001 四方拝 ―宮廷行事編01―

この欄では、折に触れて日本の風土と密接な関わりをもつ年中行事や風習を社会科の池田先生がご紹介します。

新年を迎えました。皆さんのなかには初詣や礼拝に行かれた方もあるでしょう。私が専攻する平安時代の宮廷社会でも「四方拝」（しほうはい）とよばれる行事がありました。黄櫨染御袍（こうろぜんのごほう：ヤマハゼ[黄の染料]・スオウ[赤の染料]の心材と灰汁などで染めた束帯の上衣。820年以降は天皇のみが着用を許されて今日に至ります）を着用した天皇が、元日朝の寅刻（午前3-5時ごろ）に居所である清涼殿の東庭に下り、属星（ぞくしょう：北斗七星のうち生年の干支に対応する星）の名や「賊寇之中過度我身、……急急如律令」という呪文を唱えた後、天地・四方・二陵（天智陵･桓武陵か）を遙拝するものです。初見は890年の宇多天皇の事例ですが、それ以前から行われていた可能性もあり、のちには貴族にも広がったことが、近年「世界の記憶」になった『御堂関白記』などから知られます。

そしてこの行事、変遷や中絶はありますが、実は現在でも皇室の私的行事として行われています。すなわち、元日の午前5時30分に皇居内の神嘉殿南庭に設けられた座に天皇が出御され、まず伊勢神宮を遙拝、ついで四方を東･南･西･北の順に拝礼、さらに神武天皇陵・父帝の陵を遙拝された後、皇室に縁のある神社―埼玉県大宮の氷川神社のほか、上賀茂神社･下鴨神社･石清水八幡宮･熱田神宮、鹿島神宮･香取神宮―を遙拝されるのです（属星や呪文は消えていますね）。ただし、言うは易しで高齢の天皇には大変なご負担ですし―とはいえ代拝は許されず、服喪中やご病気の際は中止されるのが習わしです―、当日はほかにも宮中行事が目白押しですから、晩年の昭和天皇は時間を繰り下げて室内で行われたほか、今上天皇も2007年以降は今年も含めて御所で行われています（2010･11年を除く）。ちなみに、現行のスタイルは意外に新しく、1872年（明治5）に整備されたもの。これ以外にも、現在行われている宮中祭祀や皇室に関する諸制度の多くは、明治以降に再興あるいは創始され、整備されたといっても過言ではありません。

「明治」といえば、今年2018年は、明治元年（1868）から数えて満150年にあたります。われらが福澤先生が活躍され、近代化の基礎が築かれる一方で、新たな課題を抱えることにもなった「明治」という時代を、これを期に冷静に振り返ってみましょう。

(*Ikeda*)

z/c 353-0004 埼玉県志木市本町4-14-1[tel: 048-471-1361]
慶應義塾志木高等学校
2018年 冬号（No.063）
2018年 1月19日発行

寒波襲来

今年の冬は特別に寒い気がするなと、12月の気温変化のグラフをつくりました。実線がこの冬の2017年12月、比較のために昨年の同じ時期の気温変化を破線で描きました。一目見れば圧倒的に今シーズンは昨年よりも気温の低い日が多いのがわかります。実際、昨年よりも暖かかったのは7日しかありませんでした。

この寒波の原因は「北極域の空気が南下している」ことによります。それを見るために、500hPa高層天気図というものを利用します。よく天気予報で「上空5000mでマイナス30℃の寒気が…」と言うときに出てくるあの図です。

図は北極の真上から見た地図になっていて、ちょうど×印の線が交差しているところが北極です。日本は中央やや下のちょうど正面にありますね。2枚の図は左が今シーズン、右が昨シーズンのものです。

（細かい説明は避けますが）線が密集しているあたりが、ジェット気流とよばれる非常に強い風が吹いているところです。このジェット気流よりも北側の空気がおおよそ北極の空気＝寒気です。

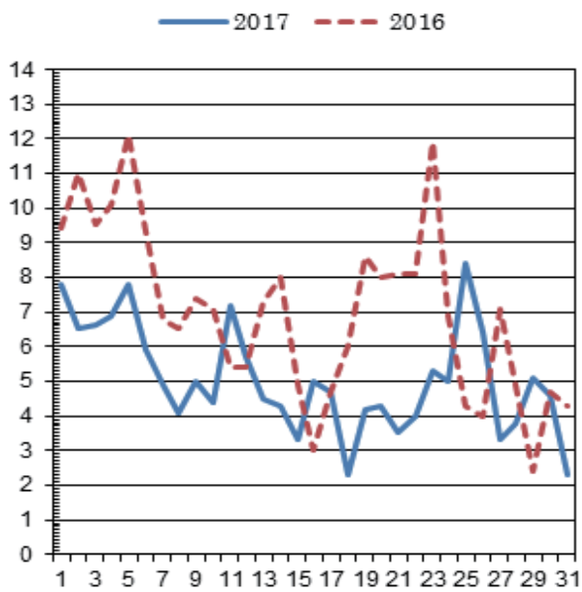


図 12月の気温変化　アメダス「さいたま」気温（実線）2017年、（破線）2016年

今シーズン(左図)の場合、5400mあたりの線の密集域が極東域でかなり南に蛇行し日本列島上空を通っています。つまりジェット気流がかなり南下＝寒気が南下しているということです。昨シーズン(右図)の場合はこのような著しい南下が見られず、日本は暖かかったということになります。

同じ観点で北米域を見ると、昨シーズンも寒気が南下しており、今シーズンはこの南下がより顕著に見られます。最近アメリカ東部を襲う寒波がニュースになっていますね。

ここにとりあげた2つの図はいずれも一カ月平均の図です。実は日々のジェット気流はもっと激しく蛇行しています。日々の変化をそのまま見たのではメチャクチャな動きも、一カ月平均することでその時期のトレンド（傾向）を、このようにとらえることができるのです。

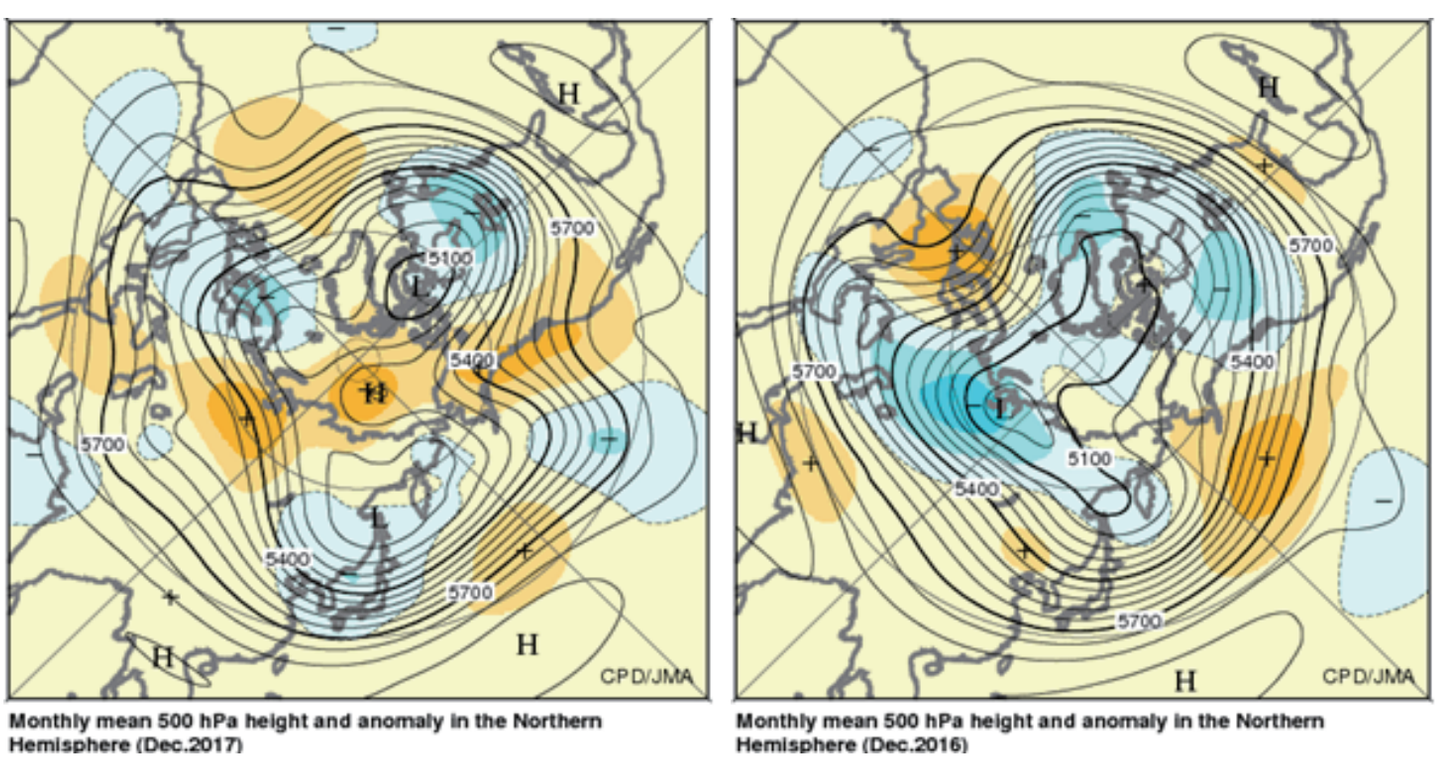


図 一カ月平均した500hPa高層天気図　（左）2017年12月、（右）2016年12月

(Higuchi)

サザンカとツバキ

Botany

志木では今年はまだ積雪を見ませんが、まだまだ春には遠い時季ですね。この時季は校内の森も葉を落とし、花も少なく、とても寂しい季節です。でもそんな中、花を咲かせている植物もあります。その１つがサザンカです。農園の東の端、隣家との仕切りに植えられたサザンカの垣根があります。畑は、現在、休耕状態で閑散とした風景ですが、サザンカだけが、葉をつけ花をちらほらと咲かせて、頑張っているなという感じです。サザンカというと「演歌」というイメージは、やはりこの寒さに負けずあえてつらい時季にきれいな花を咲かせているという、この頑張り感を人生に重ねてなのかなと、納得してしまいます。

サザンカは、「山茶花」と書きます。これは中国ではツバキ類を指すようですが、この読み「サンサカ」が訛って「サザンカ」になったなどという説もあるようです。ツバキ科ツバキ属　*Camellia sasanqua* ですので、ツバキ *Camellia japonica* によく似ており、よく見ないと区別がつきません。見分け方としては、まず葉です。ツバキの葉は5～12cmでワックスをかけたようにつやつやとしていますが、サザンカはひとまわり小さく、3～7cmくらいで、つやがなく縁の鋸歯が目立ちます。次に花です。開花は、ツバキは今ぐらいから４月の春にかけて、サザンカは秋10月から今ぐらいまでですので、もう終わりかけています。花の散り方にも特徴があり、ツバキは花ごとボトッと落ちるのに対して、サザンカは花弁が１枚ずつ散ります。どちらも日本で古くから親しまれ、学名も江戸時代に日本で発見されつけられました。

皆さんもぜひ、この寒い中頑張って咲いているサザンカをご覧になって、ツバキとの違いを見分けてみたり、演歌チックに人生と重ねてみたりしてください。

ちなみに今しか見れない花で、変わったものとしては、牧童わきの芝生にあるキミガヨランもなかなかエキゾチックですので、ぜひぜひ。

(Izawa)

「十二月の俳句」

十二月十三日

すかすかになりにし枝に冬の鳥

宿木の青々として枯木かな

着ぶくれてスマートフォンに薄笑ひ

十二月十四日

寒鯉や栓の鎖のとぐろ巻く

十二月十六日

枯草の中に実生の枇杷育つ

生贄の如し虚空の枯蔓は

十二月十九日

墨汁がはね山茶花の花弁かな

マンションの陰のしかかる冬田かな

昨年は、一年間に２００回の俳句会に参加するという目標を立てて、句会に参加した回数を数えていました。十二月三十日に２０３回目の句会に出席して一年が終わり、無事に目標を達成できました。校内でも、文学特論（は）の授業の句会と毎週水曜放課後の句会とで１００回くらいは回数を稼がせてもらいました。付き合ってくださった皆さん、ありがとうございました。

四月からは中等部に戻りますので、地道なやり方を離れて良い俳句に通じる道を探っていきたいと思います。

（前北）

志木の自然[長月(9月)神無月(10月)霜月(11月)師走(12月)睦月(1月)]　*Plants*

9～10月にかけて、正門右手の植え込みや図書館脇、ホームルーム棟東端で紫色のまだらの少し変わった花が咲く。「ホトトギス」というユリ科の植物である。同じ音でも鳥の場合は「不如帰」、こちらは「杜鵑」と書く。花言葉は『秘めた意思』だそうだ。

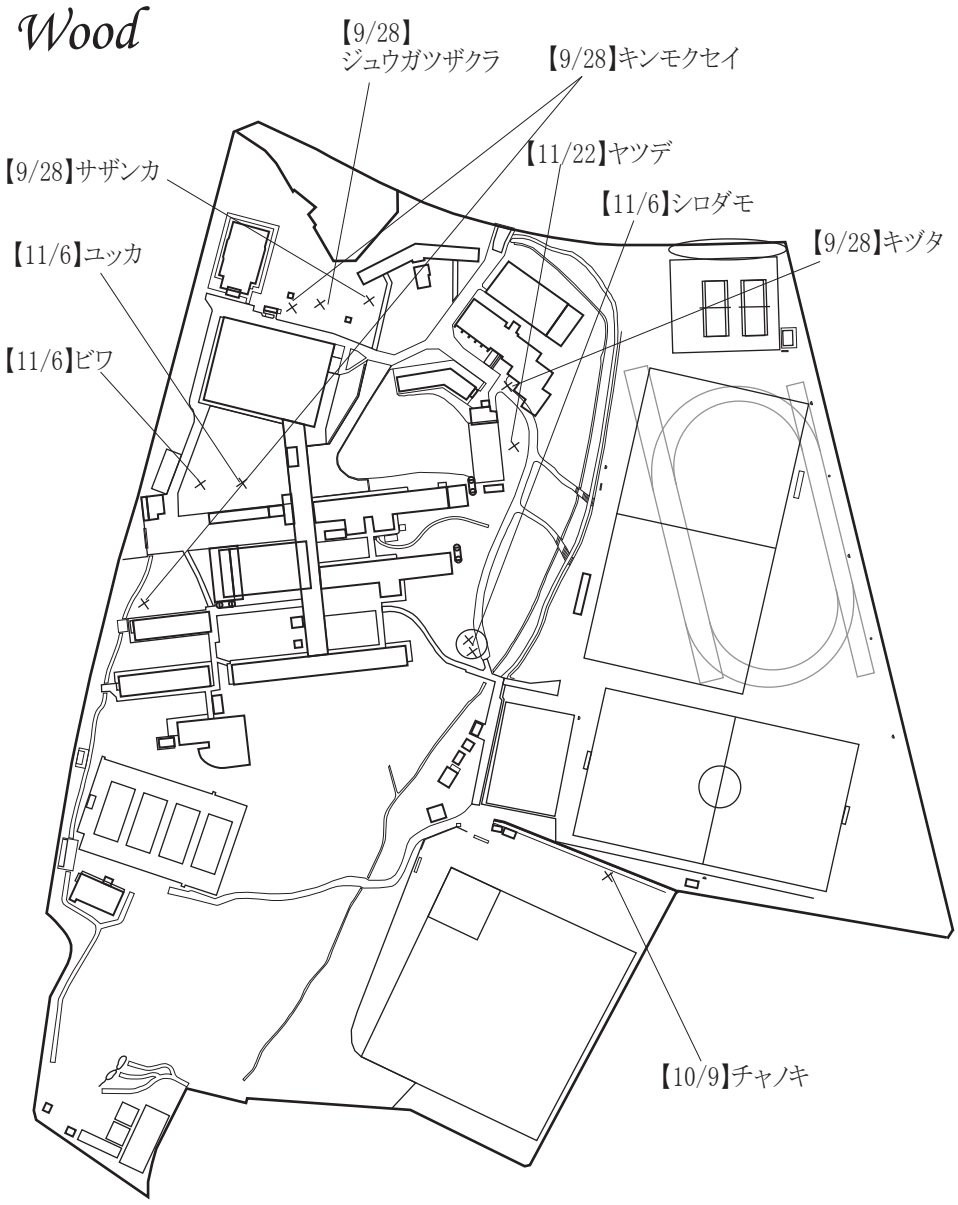
1月に入ると気の早い「春の植物」が花を咲かせはじめる。ナズナ、ミドリハコベやオオイヌノフグリなどは一般的に4月頃に開花と思い込まれているようだが、例年この時期にはもう開花している。

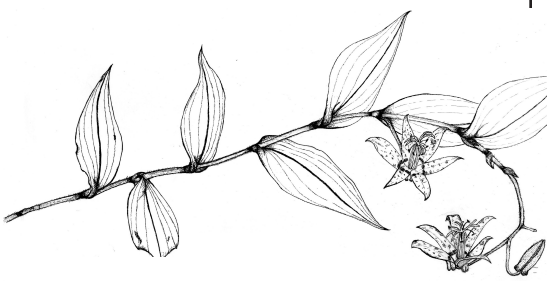
[2017年9月～2018年1月までの開花情報]

Grass

28. Sep.2017	ヒメジソ, セイタカアワダチソウ, アメリカセンダングサ, ホトトギス, チカラシバ
9 .Oct.2017	カントウヨメナ, ツルドクダミ, ヨシ
23 .Oct.2017	ツワブキ
3 .Jan.2018	チチコグサ, ニホンズイセン, ハルノノゲシ, ナズナ, オオイヌノフグリ, ミドリハコベ

Wood





ホトトギス
ユリ科　ホトトギス属

(Miyahashi)

この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。
名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

執筆・担当区分	動物・環境	井澤　智浩 *(Izawa)*
	天文・気象	樋口　　聡 *(Higuchi)*
	俳句	前北　　馨 *(Maekita)*
	風習・行事	池田　卓也 *(Ikeda)*
	植物・地質　他[&発行責任]	宮橋　裕司 *(Miyahashi)*
	編集・植物画	荒巻　知子 *(Aramaki)*